



本来、「城」は土塁などで築かれた砦のようなものでしたが、今日、我々が「城」としてイメージする「姫路城」「大阪城」は近世のものであり、その先駆けとなったのは織田信長が築いた「安土城」です。

安土城は、築城開始からわずか10年で焼失したため記録も少なく、その全容はいまだ謎の部分も多くありますが、昭和15年に初めての発掘調査が行われた後、石垣の修理や平成元年から20年をかけて滋賀県城郭調査研究所が行った発掘調査等により、次第に安土城の実態が明らかにされています。

なお、安土城大手道から南東約500mにある「信長の館」には、1992年に開催されたスペイン・セビリア万博へ出展された原寸大の安土城天主(5、6階部分)が展示されています。



観音寺城は織山（きぬがさやま）一帯に築かれた山城で、近江源氏佐々木六角の居城でした。山中には至る所に石垣が見られ、高石垣や排水用の暗渠（あんきよ）や排水枡の存在など技術の高さは目を見張るものがあります。又、誰もが自由に商いを行うことが出来る「楽市楽座」を始めたのもこの地が最初になります。

歴史的にも価値の高い「観音寺城」の本格的な調査環境整備に向けて、滋賀県により基本計画の策定が進められています。



近江八幡市章

安土駅観光案内所
☎0748-46-4234
近江八幡駅北口観光案内所
☎0748-33-6061

佐々木六角について

*近江の歴史には必ず名前の出てくる佐々木氏は、宇多天皇の皇子敦実親王が佐々木荘を本拠として佐々木氏を名乗ったことから始まります。源頼朝が挙兵した際に鎌倉幕府の創設に貢献し、近江国を領しました。その後、大原、高島、六角、京極、などに分家しましたが、近江国を二分する形で領有した六角氏と京極氏は、互いに戦いを繰り返すことになりました。

なお、昭和29年に公募により制定された近江八幡市の市章は、佐々木六角に由来する六角と八幡の「八」を平和のシンボル鳩の形に置かれたものです。

編
集
後
記



近江の国は、古来より人々や物資の往来が盛んで様々なものが行き交いました。京の都にも近いこの地を支配することは天下を治めることでもあり、近江の国を舞台にした戦は数多く、「近江を制するものは天下を制する」という言葉も残されています。

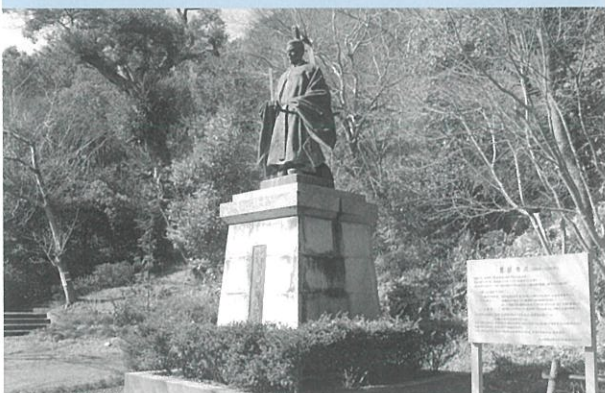
戦に欠かす事の出来ない「城」は、滋賀県内に1300を越える数に及びます。この数は、都道府県別では全国で4番目の多さで、分布密度で見れば全国で最も高くなります。

近江八幡市が属する東近江地域は鎌倉時代より活躍した近江守護の佐々木氏やその家臣が築いた城が多く、その築城技術の高さは一見の価値があります。今回はその中から代表的な城を紹介いたします。



豊臣秀次

近江八幡市宮内町
八幡公園



1 八幡山城

近江八幡市宮内町
標高271m



任ぜられた豊臣秀次(豊臣秀吉の甥)が築城した城が八幡山城です。後背部は津田内湖(昭和46年干拓、東には西の湖(ラムサール条約登録湿地)が広がっています。本丸、二の丸、北の丸、出丸からなる城郭を持ち、南側の山麓には城主「豊臣秀次」の居館や重臣達の邸宅があつたとされ、中世の城の形態である山城の形を取る最後の城として歴史的価値が高いとされています。築城に当たっては、安土城下の町や社寺の一部を移し、新しいまちづくりが進められました。

築城から5年後(1590年)、秀次は100万石を領し清州へ移封となり京極高次が城主となりましたが、1595年、秀次が自刃後に八幡山城は廃城(高次は津城へ移封)となりました。

八幡山城は長らく石垣を残すだけでしたが、村雲御所瑞龍寺が移築されロープウエーが整備されたことなどにより、多くの観光客が訪れる観光拠点になっています。

八幡山城の本格的な調査はこれまで行われてきませんでしたが、平成12年度からの本格的な調査では、豊臣秀次居館跡から金箔瓦の破片(約200点)などが出土しています。



八幡山全景



八幡公園 秀次館の石垣

村雲御所瑞龍寺

近江八幡市宮内町
八幡山山頂



4 水荃岡山城

近江八幡市牧町
標高187m



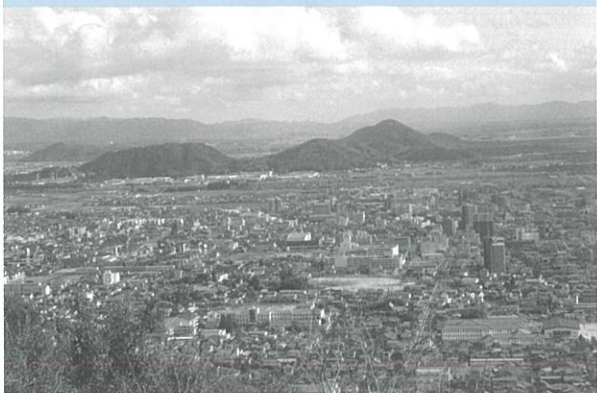
当地域は万葉集にも謳われる景勝地で古くから多くの人々を魅了してきたところです。室町幕府の將軍争いにより、都を後にした11代將軍の足利義澄(よしずみ)が地方の武士であつた九里浄椿(くのりじょうちん)に助けを求めたことから、当地に城が築かれることになりました。

現在は干拓され陸続きとなっていますが、以前は周囲が湖に囲まれていたため浮城でした。琵琶湖を知り尽くした彼らは、数に勝る幕府軍の攻撃を撃退し、逆に京都へ攻め上がる計画を立てていましたが、義澄の急逝などの不運もあり和議を結びましたが、後に、奇襲攻撃に遭い籠城の末、落城しました。

命を救われた九里でしたが、落城から2年後、当地で生れた亀王丸(足利義晴)よしはる(1)が12代の將軍に就いたことを知り、思い残すことはないと思自刃しました。

18 長光寺城

近江八幡市長光寺町
標高234m



將軍に忠誠を誓い戦国の世に散った悲運の武士の舞台となつた岡山城は、歴史的にはわずか13年の短い城でした。昭和57年に地元有志により供養塔などが設置されました。

長光寺城のあつた長光寺山は、別名、瓶割山と呼ばれています。この由来は、織田信長の命により配されていた柴田勝家が、近江の守護「佐々木」の軍勢に包囲され籠城策を取つた際の逸話によるものです。籠城が長引くにつれ、貯蔵している水も残りわずかとなり、このままでは落城も時間の問題と思われたが、柴田勝家は、座して死すよりも將兵の士気を鼓舞し勝利を収めるため、残りの水を將兵に飲ませた後、その水瓶を自ら割つて必勝を期し勝利を得たという武勇伝から瓶割城とも言われるようになったと伝えられています。

西光寺

近江八幡市中村町



*市内でも有数の規模を誇る浄土宗の寺院。僧「貞安」を開山として織田信長が安土城下に建立したものを豊臣秀次が現在地に移転したとされています。境内には、織田信長の遺骨の一部が葬られたとされる供養塔があります(織田信長の供養塔や墓とされる物は国内で約150基あると言われています)。

開山は、高野山で自害させられた豊臣秀次の菩提を弔うため、生母である「とも」(瑞龍院日秀尼公)が後陽成天皇より京都の村雲(堀川今出川)の地を与えられたことに始まる日蓮宗唯一の門跡寺院です。当地は豊臣秀次が八幡山城を築いた地ですが、昭和36年に京都より当地に移築され現在に至っています。山頂からは、琵琶湖、水郷、町並みなどが眺望できます。

